

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	東京工業大学	整理番号	1906
プログラム名称	最先端量子科学に基づく超スマート社会エンジニアリング教育プログラム		
プログラム責任者	井上 光太郎	プログラムコーディネーター	阪口 啓

(評価決定後公表)

(総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

[コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、当大学が有する3つの卓越大学院プログラムを経営戦略である「共創戦略」として位置づけ、産業界との連携を強化した博士教育を実施し、大学院改革が組織的に進められており、具体的な成果が出ている。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、学生自ら異分野融合の共同研究を目指し社会課題の解決につながるかを考える等、自らが成長するスキームが構築されている。ほぼ英語による講義を行い、学生への経済的支援も充実している。多くの賞も獲得しており、卓越した人材育成は着実に進んでいる。また、キャリア支援として実質的なマッチングインターンシップも奏功している。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導體制の整備については、当プログラムを国際教育拠点として位置づけ、完成度の高いプログラムが設計・運用されている。また、超スマート社会推進コンソーシアムを設立し、産官学連携による次世代型社会連携教育研究プラットフォームとして機能させ、34件の共同研究実績もでている。さらに、当コンソーシアムに対して、東京海洋大学や静岡大学から連携のオファーも来ているなど想定を上回る優れた活動を行っている。

優秀な学生の獲得については、応募学生数もコロナ禍にもかかわらず確保されており、

国際的な育成拠点として成果を出している。他方、履修生の留学生比率が 63% (R2)、82% (R3) と学部段階と比較しても極端に大きい。国内外の多様な学生が日本に集い切磋琢磨する国際的な大学院とするために、従来から取り組んでいる日本人の応募者を増やすための課題分析と改善方策にさらに取り組んでいただきたい。

世界に通用する確かな質保証システムについては、プログラムの所属選抜、中間審査、本プログラム修了審査、博士学位審査の 4 つのゲートからなる学位審査体制が確立している。

事業の継続・発展については、超スマート社会推進コンソーシアムの仕組みを通じて、協賛金や研究費等の学外資金を順調に得ている。学内外資源の順調な推移から、取り組みの継続及び発展が確保可能と考える。